

法雲寺報

法雲寺
2008/12/20発行
兵庫県美方郡香
美町村岡区村岡
2365

人生往來手形

数年前、教区内の会合に出席した折、西国二十九番札所である松尾寺(舞鶴市松尾)に任職から「人生往來手形」と題する講演を拝聴する機会があり、その時の記念品として往來手形を一枚頂きました。何度か、手形をコピーして法話の材料にさせて貰ったので、目にされた方も有る

かと思えます。

この「人生往來」、その名が示す如く、常に六道(詳しくは左表参照)を輪廻・転生し留め難く、定める事が難しい我々の魂を、魂の本来の世界である「あの世」に無事送り返す。そしてまた「この世」で積んだ善行の縁満ちて再び、人として魂宿して「この世」に再び戻ってくる為の「往復切符」のようなものと理解することが出来ます。

輪廻する我々の魂

この手形は六道を輪廻する魂の存在を中心に考えて居ます。その輪廻する魂が「この世」で親から授かった身体と一体となって今我々は生かされていると考えています。

あくまで輪廻する魂が主人公ですから、「あの世」が魂の本来の世界(故郷)であり、「この世」の今の人生の方が仮りの世界と考えています。

それ故、手形の文中には我々のことを「この世の間借り人」と表わしています。六道輪廻の考え方によれば、この身体は「この世」で魂を守り、運ぶための船の如き存在なのかもしれません。

果たして、今のこの時代に魂の輪廻や転生等と言っても、どこまで説得力が有るのは疑問ですが、今のこの人生だけで朽ち果ててしまう身体を中心に考える一生よりも、魂を主人公と考え現世・来世と転生を繰り返しながら延々と引き継がれる命、その一部分が今の人生であると考えた方が、今の人生を最後まで力強く生きて行けるように思えますが、如何なものでしょうか？

六道の別の見方

また、「六道」は魂云々ではなく、その時々人の心理状態を表わす世界と理解する事も出来ます。時に人は天人のように崇高深遠な事を言っただかと思えば、同じその人が犬畜生

にも劣る行いをしてしまうものです。地獄から天・・・果ては仏の世界まで、我々の心の中にはそれぞれ心理状況があり、その時の気持ち次第で、鬼畜のような言動に出たり、仏のような慈悲を表わしたりします。誰でも大なり小なり常に変化している訳です。

自分の心の中で常に気持ちが激しく輪廻転生していると言うことは、鬼の気持ちから仏の気持ちまで心が常に変化し一定して居ない事であり、精神的に落ち着かない状況とも言えます。

そう言う見方でこの手形を見れば、餓鬼や畜生・修羅の気持ちにぶれず、常に人間(できれば天人や仏)として安定した気持ちで平安にこの人生を送る為のヒントが書いてあるとも思えます。

三毒・・・煩惱の根本

生きている限り我々は次々に生まれてくる不安や悩み、そして湧き上がる欲望と縁を切ることが難しいものです。これらの煩惱が、安樂に暮らして行こうとする我々の心を乱してしまいます。

この煩惱の根源を突き詰めれば貪(とん)・瞋(じん・怒り)・痴(ち)の三毒に分類されると言えます。手形の中にも有る様に「愚痴なく、怒らず、貪らず」が人生を安樂に送る秘訣のようです。余りにも当たり前のことですが、しかし、守るには難しい事かも知れません。

少し前まで持て囃された「勝ち組志向」や「お金儲け礼賛」に代表される「自分さえ良ければそれで良い」と言った風潮もココに来て、多くの人々が疑問を感じ、「何処か根本的に改めなければ」と気づいて居ます。

利益だけの為に信頼を平気で欺く食品偽装や、金が金を生む錬金術的なアメリカ経済の凋落。次々に表面を覆っていた薄皮が剥かれ、空虚で実体の無い姿が表に出してきました。

貪欲に己が利益のみを追いかけ回した虚像の末路を我々に晒して居ます。そしてそんな事とは、直接関係無い筈の我々にも、その余波が及んでしまうのが、今の社会のややこしい所です。

「愚痴なく、怒らず、貪らず」言い古されて来た言葉ですが、人の中で生きて行くしかない我々に取って、誠実に人生に向かい合い、満ち足りたものにするには無視出来ない言葉で有る事を広く思い起こして欲しいものです。

魂の来世を信じる・信じないに関わらず、今のこの人生の充実に繋がる大切なヒントと思えます。

人生往來手形

右の者あの世より縁あって、此の世に人として生を受けました者故所詮は此の世の間借り人であります。なれば三度の食べ物にも文句を云ねず美味とほめ、人と気まずい事があっても我が身の至らぬせいと思ひなし愚痴なく怒らず貪らず程よく此の世に暇をいして元のあの世に帰る者故精々親切大事に願います。

平成 年 月 日

西国第二十九番青葉山松尾寺



六道世界とは

1	地獄道	罪を償わせるための世界。
2	餓鬼道	常に餓えと渇きに悩まされる世界。
3	畜生道	本能だけで生きている動物の世界。
4	修羅道	終りの無い戦いや、争いに満たされた世界。
5	人間道	楽しみもあるが四苦八苦に悩まされる世界。
6	天道	寿命は非常に長く、苦しみも人間道に比べ少ない。

・六道の上に仏道を学ぶ、声聞・縁覚・菩薩・仏の世界(四聖)がある。
・六道と四聖を合わせて十界とも言う。

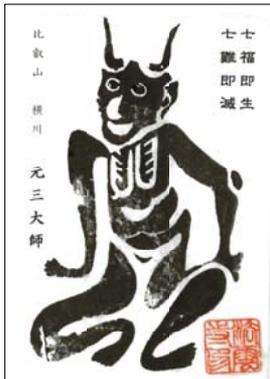
来年もよろしく お願いいたします

低金利と言う土台の上
に花咲いた？”戦後最長
の好景氣”が知らぬ間に
終わったかと思ったら、
次は”百年に一度の経済
危機”らしいのですが、
何となくどちらも実感が
持てないままにこの社会
は推移し、何処に向かっ
て行くのか？

しかし、一つの世間の
中で生きている我々。好

むと好まざるとに開われ
ず社会の変化に翻弄され
る身です。

しかし、人の世は経済
指標や数字だけが頼りで
はない筈。
新しい年は人が人とし
て素直に接し、互いに信
頼出来る。そんな社会に
回歸する切欠の一年にな
ればと期待して居ます。



千支絵馬と角大師
絵馬は背面に願い事など
書いて、神棚や仏壇等にお
飾り下さい。古くなった絵
馬・お札等はドンドの時に
出すか、寺社のお札奉納箱
に納めて下さい。

角大師のお札・絵馬

本年も角大師のお札と
千支の絵馬をお配りいた
します。(村岡はお正月
に)

角大師は昨年お配りし
たお札と交換して頂いて
も、更に用心が気になる
所に貼って頂ければ良い
かと思えます。千支の絵
馬は願い事など裏側に書
いて頂き、ご自宅の神棚・
仏壇等にお飾りして時折、
お祈り下さい。

用が無くなったお札等
はドンド(注連縄焼き)
の時に出して頂くか、寺
社のお札奉納の所にお納
め下さい。
新しい年が皆様にとつ
て平安で温かい年になる
よう、ささやかですがお
札と絵馬でお手伝い出来
れば幸いです。

除夜の鐘突き

例年、除夜となると雪
に見舞われるのですが、

H20年の除夜もお参りの
方々と鐘をつき新年を迎
えたいと思っております。
昨年は30名ほどの方がご
参加いただきました。笹
酒も少しだけ準備いたし
ていますので、神社への
初詣の際、お時間が有り
ましたら、旧年中の雑念
を打ち捨てにお立ち寄り
下さい。

除夜の鐘つき

- ・日時：12月31日午後11時
45分頃〜0時半
- ・年越しソバ(カップ麺で
すが…)、笹酒等のお
接待予定



除夜の鐘つきと
接待、笹酒

特別寄進のご報告

H20年4〜12月

多くの皆様から特別寄進の協力を
頂いて居ります。また、右記以外に
も寺院運営に関する様々な形のご協
力を頂いて居ります。皆様方のご協
力に深く感謝いたします。
尚、ご寄進の使途については、来
年の総会資料にてご報告いたします。